

2014年度（15年3月期） 第1四半期決算概要

2014年7月30日

日本電気株式会社

(<http://jpn.nec.com/ir>)

I. 第1四半期決算概要

II. 業績予想

- 決算概要（補足）
- 業績予想（補足）
- 参考資料（業績データ）

I. 第1四半期決算概要

第1四半期 概況サマリー

前年同期比で減収増益、損益は想定を若干上回り進捗
 (現在注力する事業ベース売上高では約3%の増収)

(単位:億円)

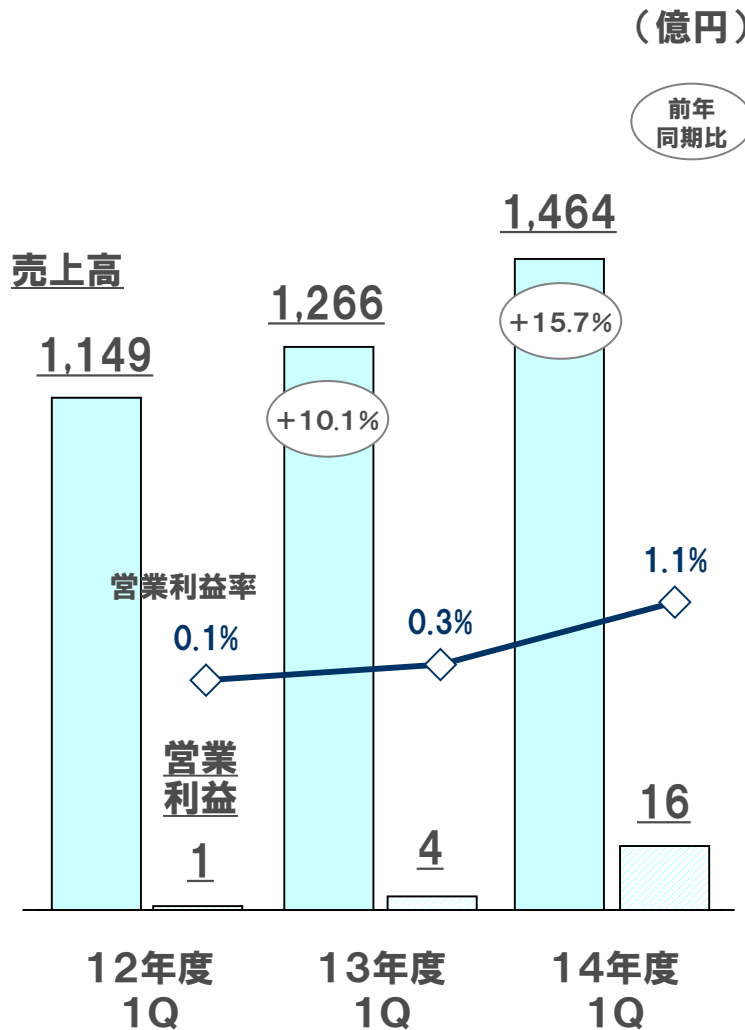
	第1四半期 <4~6月>		
	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
売上高	6,401	5,987	△ 6.5%
営業損益	△ 218	△ 71	+ 148
対売上高比率 (%)	-3.4%	-1.2%	
経常損益	△ 282	△ 100	+ 182
対売上高比率 (%)	-4.4%	-1.7%	
当期純損益	△ 215	△ 101	+ 114
対売上高比率 (%)	-3.4%	-1.7%	
フリーキャッシュフロー	410	533	+ 123

参考：第1四半期の売上平均為替レート(実績) 1ドル=102.22円、1ユーロ=140.95円

セグメント別 実績サマリー

(単位:億円)

		第1四半期 <4~6月>		
		13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
パブリック	売上高	1,266	1,464	+ 15.7%
	営業利益	4	16	+ 13
	営業利益率(%)	0.3%	1.1%	
エンタープライズ	売上高	587	544	△ 7.4%
	営業損益	△ 24	△ 18	+ 6
	営業利益率(%)	-4.1%	-3.3%	
テレコムキャリア	売上高	1,540	1,510	△ 2.0%
	営業利益	56	43	△ 13
	営業利益率(%)	3.6%	2.9%	
システム プラットフォーム	売上高	1,577	1,669	+ 5.9%
	営業損益	△ 66	25	+ 91
	営業利益率(%)	-4.2%	1.5%	
その他	売上高	1,431	800	△ 44.1%
	営業損益	△ 99	△ 49	+ 50
	営業利益率(%)	-6.9%	-6.1%	
消去・配賦不能	営業損益	△ 89	△ 89	+ 1
合 計	売上高	6,401	5,987	△ 6.5%
	営業損益	△ 218	△ 71	+ 148
	営業利益率(%)	-3.4%	-1.2%	



売上高 1,464億円 (+15.7%)

△ 官公向け、公共向けを中心に
堅調に推移し増収

営業利益 16億円 (+13億円)

△ 売上増などにより増益

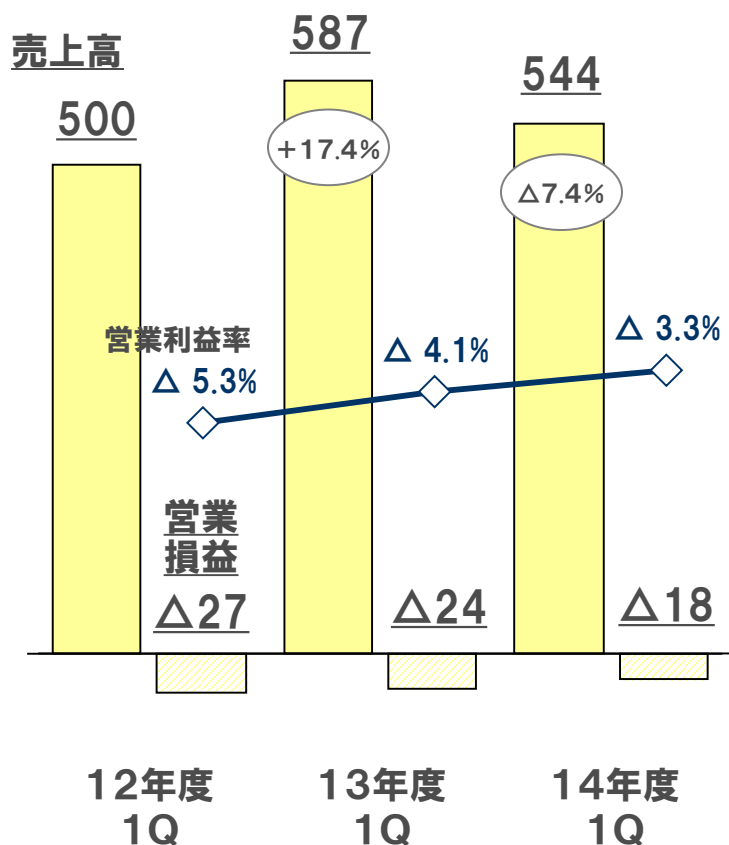


※ カッコ内の%は前年同期比

エンタープライズ

(億円)

前年
同期比

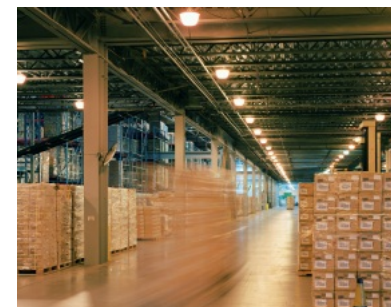


売上高 544億円 (Δ7.4%)

▽ 流通・サービス業向けが横ばいも
製造業向けが減収

営業損益 Δ18億円 (+6億円)

△ 売上減も費用効率化などにより改善



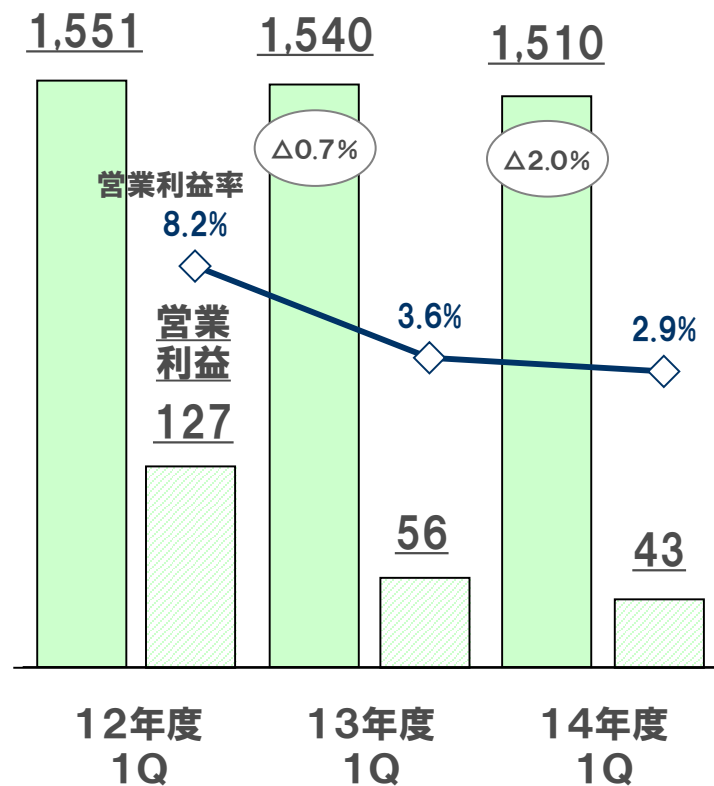
※ カッコ内の%は前年同期比

テレコムキャリア

(億円)

前年
同期比

売上高



売上高 1,510億円 (Δ2.0%)

▽ モバイルバックホールやTOMSが増加も国内および海洋システムが減少し減収

営業利益 43億円 (Δ13億円)

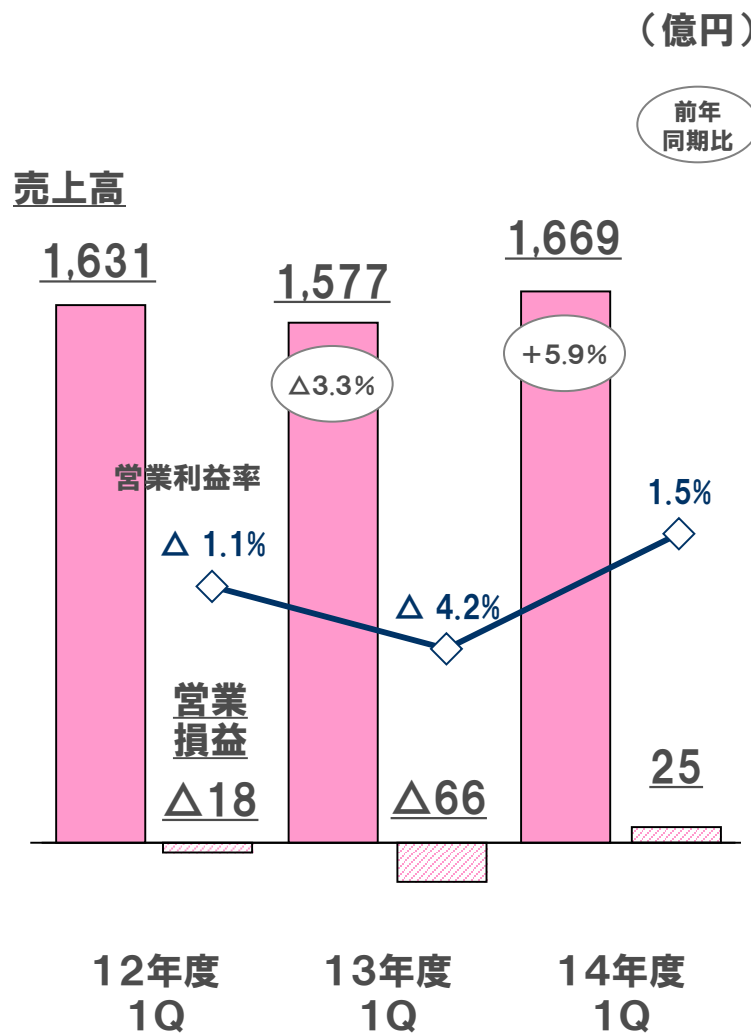
▽ 売上減により減益

TOMS : Telecom Operations and Management Solutions



※ カッコ内の%は前年同期比

システムプラットフォーム



売上高 1,669億円 (+5.9%)

△ サーバやビジネスPCなどハードウェアを中心に増収

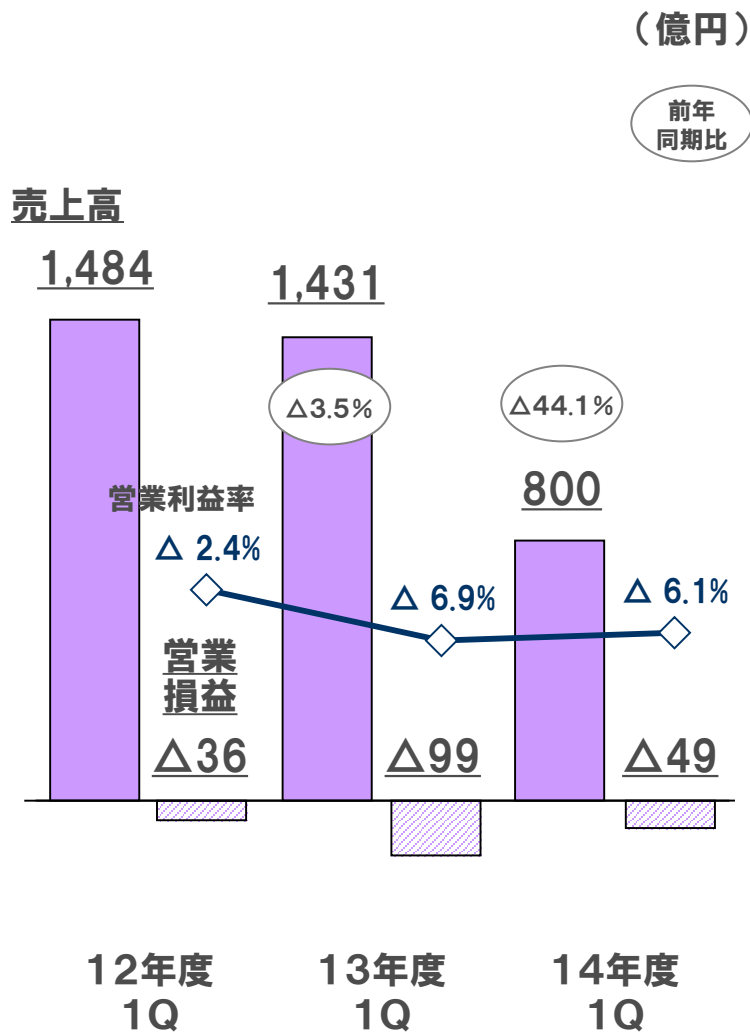
営業損益 25億円 (+91億円)

△ 売上増およびIT投資環境の改善に伴う採算性の向上により増益し、黒字化



※ カッコ内の%は前年同期比

その他



売上高 800億円 (△44.1%)

▽ NECモバイルリング、NECビッグローブの非連結化、携帯電話の出荷台数減により減収

営業損益 △49億円 (+50億円)

△ 事業の非連結化の影響はあるも携帯電話端末事業の損益改善が寄与

※ カッコ内の%は前年同期比

当期純損益増減（前年同期比）

（億円）

13年度1Q
△215

14年度1Q
△101

助成金収入 +20
持分法による投資利益 +8

営業外損益改善 +34

営業損益改善
+148

その他
△68

関係会社株式売却益 △163
投資有価証券売却益 △18
法人税等 +105

システムプラットフォーム +91
その他 +50
パブリック +13
エンタープライズ +6
消去・配賦不能 +1
テレコムキャリア △13

主な成果と取り組み

SDN関連

- 西日本高速道路(株)、名古屋市立大学病院などでSDNを採用
- (株)NTTドコモとモバイルコアネットワークの仮想化実証実験に成功



SDN : Software-Defined Networking

ビッグデータ関連

- 中国電力(株)に「大規模プラント故障予兆監視システム」を納入
- 米国国立標準技術研究所 (NIST) の顔認証技術 ベンチマークテストで3回連続の第1位評価を獲得



NECエナジーソリューションズ設立 (A123エナジーソリューションズの買収完了)

(株)ネットコムセックが防衛省に過大請求の返納金を納付 (約74億円)

- 前年度に引当済のため、年間の業績予想への影響はなし

※ 予想は、2014年7月30日現在

II. 業績予想

2014年度 経営方針

市場環境の見通し

- 国内経済は、年度後半に向けて緩やかな回復を見込む
(世界経済は、欧米が回復も新興国が緩やかな伸びにとどまる見通し)
- 国内IT投資は、SIやアウトソーシング需要等が堅調に推移
 - パブリック関連は、消防デジタル無線特需の継続、マイナンバー制度に伴う政府・自治体投資増など、社会インフラ関連投資が拡大
- テレコムキャリアは、LTE関連投資、TOMS／SDN需要がグローバルに拡大
- エネルギーは、政府の補助金効果もあり、蓄電池市場が活性化

事業遂行方針

- 成長のための注力領域への重点投資の実行
- GSD事業の拡大、海外事業の収益性改善、コストダウンの推進…

“CS NO.1” “Global First” “One NEC”

※ GSD : Global Safety Division
CS : Customer Satisfaction

業績予想サマリー

営業利益1,200億円の確実な達成を目指す (現在注力する事業ベース売上高では約4%の増収)

(単位:億円)

	通期		
	13年度 実績	14年度 予想	前年度比
売上高	30,431	30,000	△ 1.4%
営業利益 対売上高比率(%)	1,062 3.5%	1,200 4.0%	+ 138
経常利益 対売上高比率(%)	692 2.3%	900 3.0%	+ 208
当期純利益 対売上高比率(%)	337 1.1%	350 1.2%	+ 13
1株当たり 当期純利益(円)	12.99	13.47	+ 0.48

		通期		
		13年度 実績	14年度 予想	前年度比
パブリック	売上高	7,384	8,000	+ 8.3%
	営業利益	586	730	+ 144
	営業利益率(%)	7.9%	9.1%	
エンタープライズ	売上高	2,723	2,750	+ 1.0%
	営業利益	65	90	+ 25
	営業利益率(%)	2.4%	3.3%	
テレコムキャリア	売上高	7,258	7,700	+ 6.1%
	営業利益	603	660	+ 57
	営業利益率(%)	8.3%	8.6%	
システム プラットフォーム	売上高	7,808	7,750	△ 0.7%
	営業利益	307	350	+ 43
	営業利益率(%)	3.9%	4.5%	
その他	売上高	5,259	3,800	△ 27.7%
	営業損益	△ 14	10	+ 24
	営業利益率(%)	-0.3%	0.3%	
消去・配賦不能	営業損益	△ 486	△ 640	△ 154
合計	売上高	30,431	30,000	△ 1.4%
	営業利益	1,062	1,200	+ 138
	営業利益率(%)	3.5%	4.0%	

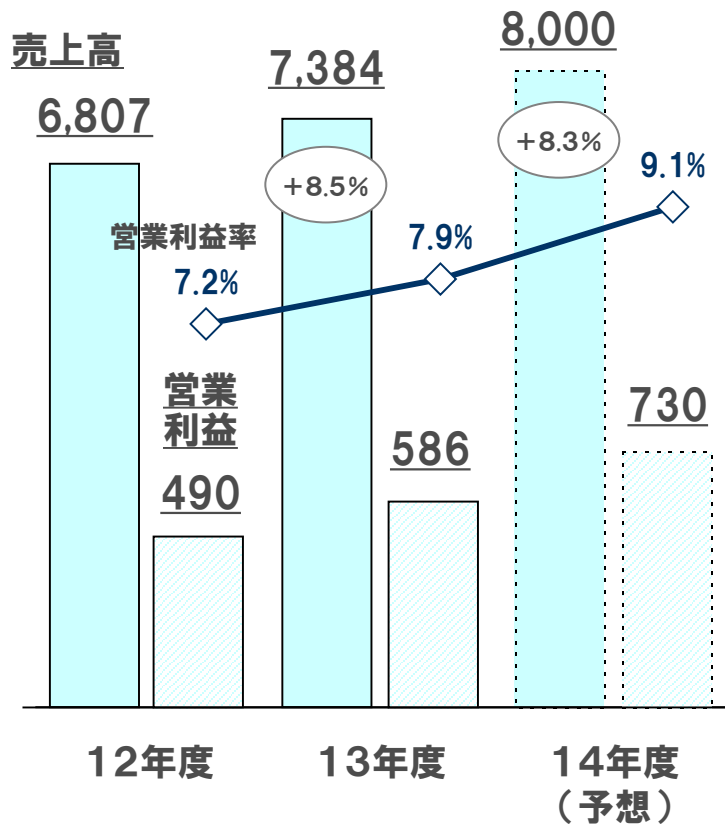
参考：14年度の為替レート前提 1ドル=100円、1ユーロ=130円

《参考》13年度上期実績：売上高 1兆3,831億円／営業利益 4億円

※ 予想値は、2014年7月30日現在

(億円)

前年度比



売上高 8,000億円 (+8.3%)

△ 消防無線、マイナンバー制度など官公向け、公共向けを中心に堅調な推移を見込む

営業利益 730億円 (+144億円)

△ 売上増、原価低減、不採算案件の減などにより増益を見込む



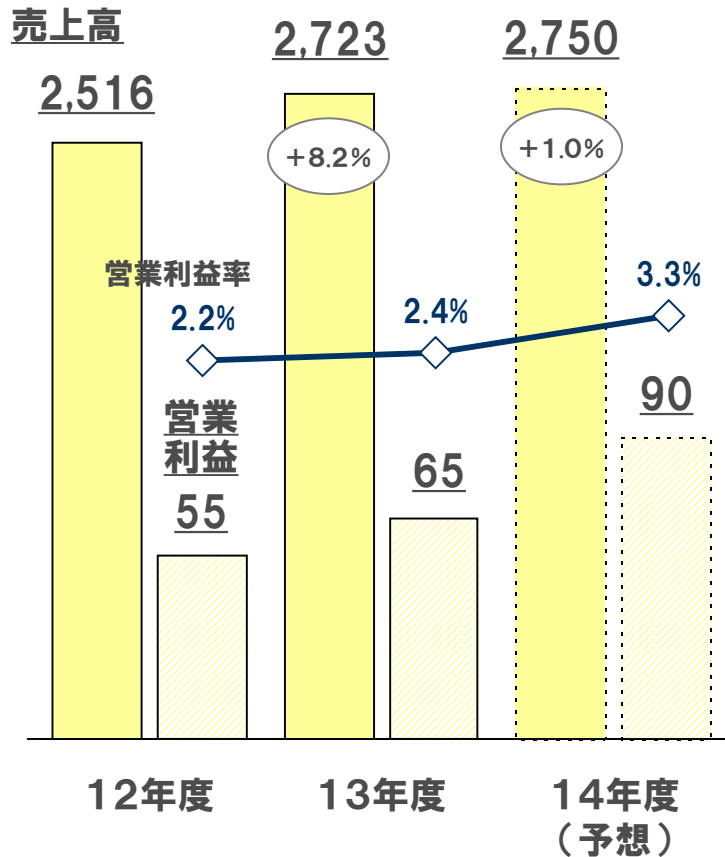
《参考》13年度上期実績：売上高 3,033億円／営業利益 145億円

※ 予想値は、2014年7月30日現在、カッコ内の%は前年度比

エンタープライズ

(億円)

前年度比

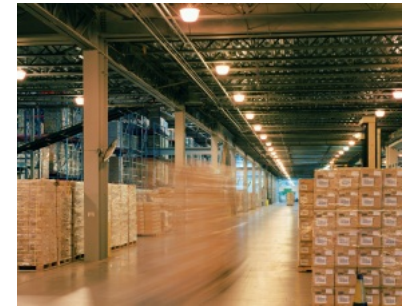


売上高 2,750億円 (+1.0%)

△ 製造業向けの堅調な推移を見込む

営業利益 90億円 (+25億円)

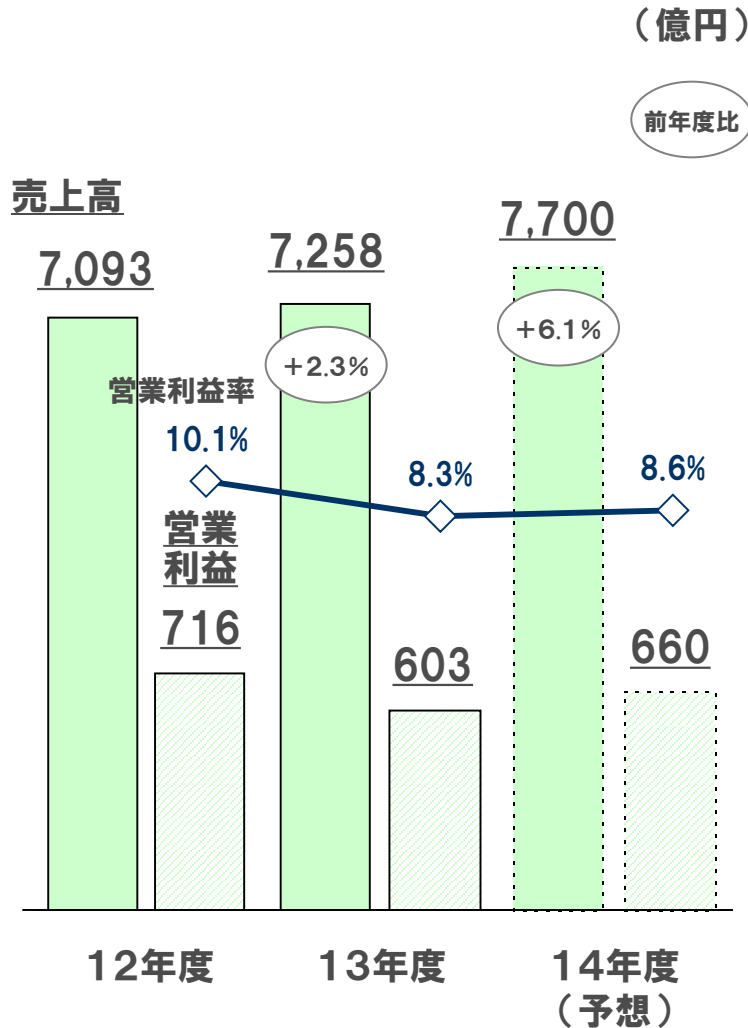
△ 売上増などにより増益を見込む



《参考》13年度上期実績：売上高 1,301億円／営業利益 7億円

※ 予想値は、2014年7月30日現在、カッコ内の%は前年度比

テレコムキャリア



売上高 7,700億円 (+6.1%)

- △ 国内は横ばいを見込む
- △ 海外はTOMS/SDNなどの注力領域とモバイルバックホールを中心に増収を見込む

営業利益 660億円 (+57億円)

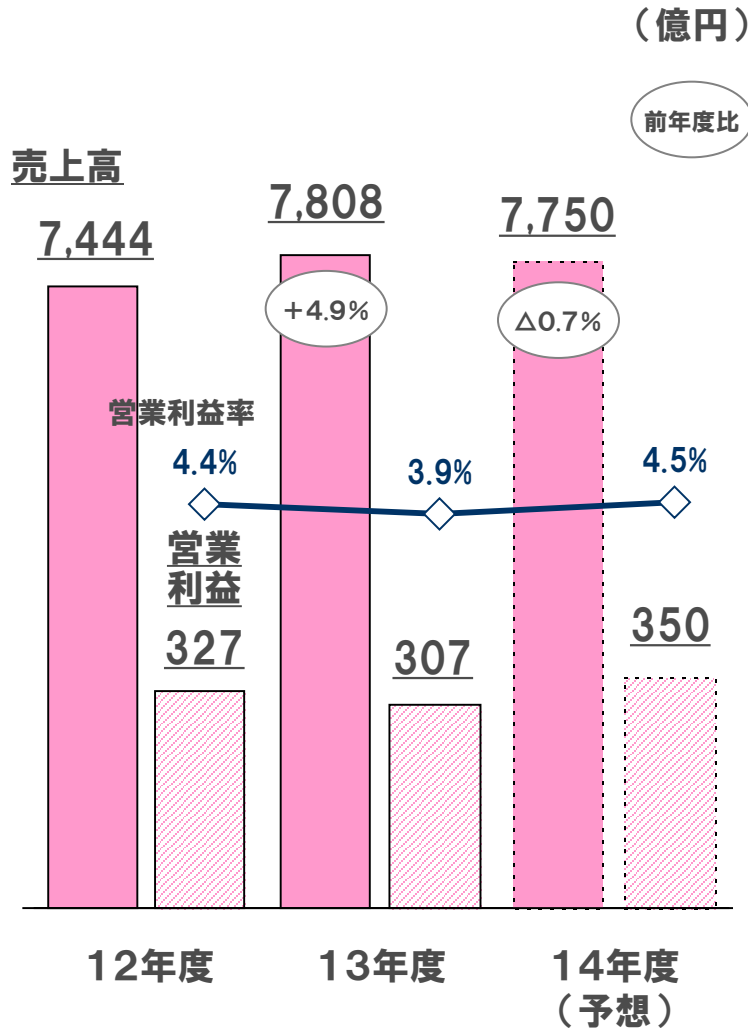
- △ 海外を中心とした売上増により増益を見込む



《参考》13年度上期実績：売上高 3,340億円／営業利益 194億円

※ 予想値は、2014年7月30日現在、カッコ内の%は前年度比

システムプラットフォーム



売上高 7,750億円 (Δ0.7%)

▽ サーバやソフトウェアなどのIT需要は継続するも、ビジネスPCの減少により減収を見込む

営業利益 350億円 (+43億円)

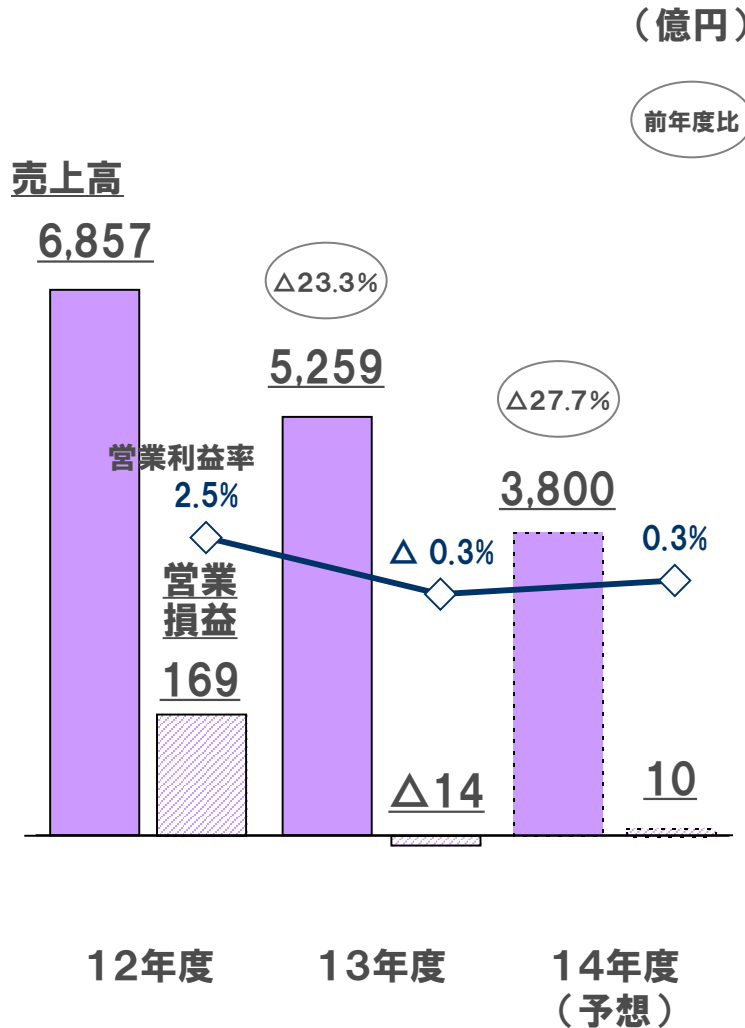
△ NECフィールドイングの統合効果やサーバやソフトウェアなどの売上増により増益を見込む



《参考》13年度上期実績：売上高 3,507億円／営業利益 18億円

※ 予想値は、2014年7月30日現在、カッコ内の%は前年度比

その他



売上高 3,800億円 (△27.7%)

▽ NECビッグロープの株式売却に伴う非連結化などにより減収を見込む

営業損益 10億円 (+24億円)

△ 事業の非連結化の影響があるものの、携帯電話端末事業やエネルギー事業の改善などにより増益を見込む

《参考》13年度上期実績：売上高 2,649億円／営業損益 △118億円

※ 予想値は、2014年7月30日現在、カッコ内の%は前年度比

当期純利益増減（前年度比）

（億円）

パブリック	+144
テレコムキャリア	+57
システムプラットフォーム	+43
エンタープライズ	+25
その他	+24
消去・配賦不能	△154

偶発損失引当金繰入額減、
支払利息減など

営業外損益改善
+70

関係会社株式売却益減など

その他
△196

営業利益改善
+138

13年度
337

14年度
（予想）
350

※ 予想値は、2014年7月30日現在

《参考》IFRSと日本基準との主要な差異

(注) 以下の数値は、当社の日本基準による業績予想数値について、国際財務報告基準（IFRS）を適用した場合の主要な差異（年金費用とのれん）についての現時点での検討に基づく試算値であり、日本基準とIFRSとの差異は以下に限るものではありません。また、以下の数値は会計監査人による監査を受けたものではなく、今後状況の変化があった場合において更新の義務を負うものでもありません。

本試算値は、投資家の参考のために自主的に作成し提供するものであり、当社は現時点においてIFRSの採用を決定していません。法令等に基づく開示書類については、日本基準に基づき今後も開示をしていきます。

(単位:億円)

	2014年度 通期		
	年金 未認識債務 償却額	のれん 償却額	計
営業利益	140	180	-
営業外損益	104		-
当期純利益	190	180	370

* IFRSでは、年金費用の計算において、数理計算上の差異等の償却を行いません。
また、のれんについても、定期償却を行いません。

※ 予想値は、2014年7月30日現在



**2014年度計画は
2015中期経営計画の実現に向けた
重要なステップとして達成すべき目標**

**3年連続で年間計画を確実に達成して
安定的な配当を継続**

※ 予想値は、2014年7月30日現在

Orchestrating a brighter world

世界の想いを、未来へつなげる。

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ
類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、
卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。

Empowered by Innovation

NEC

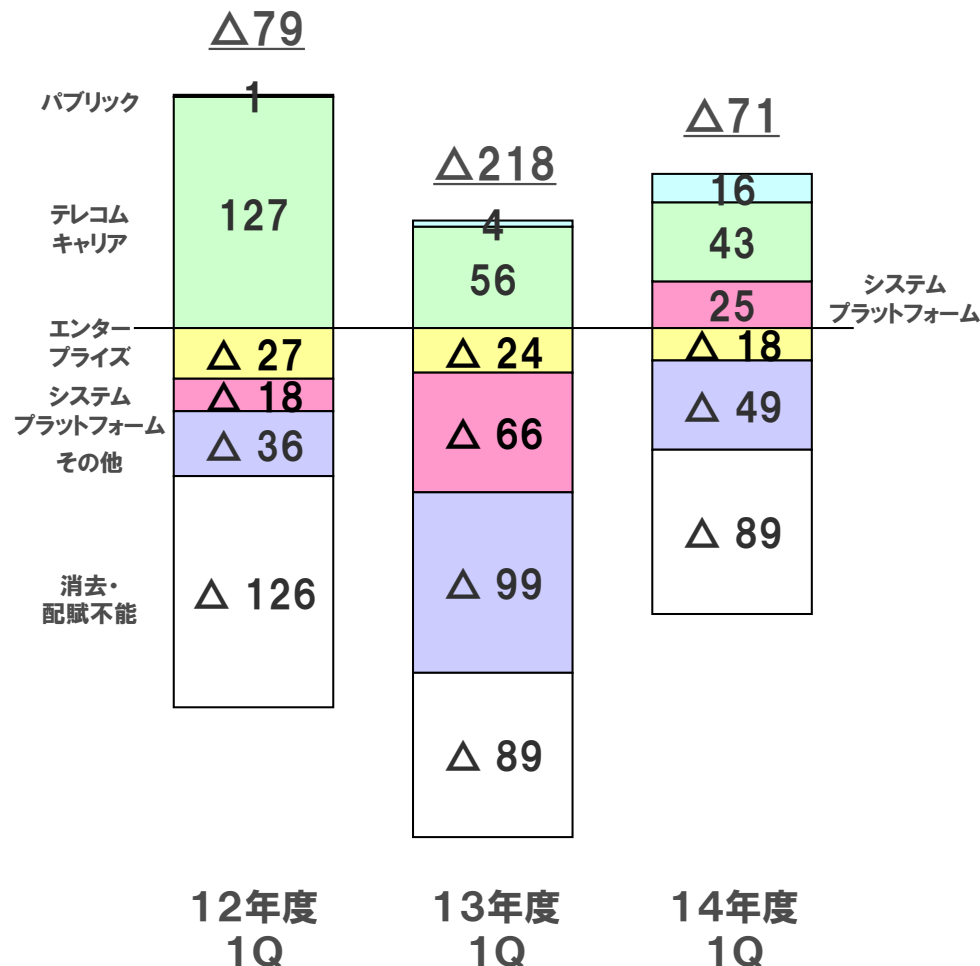
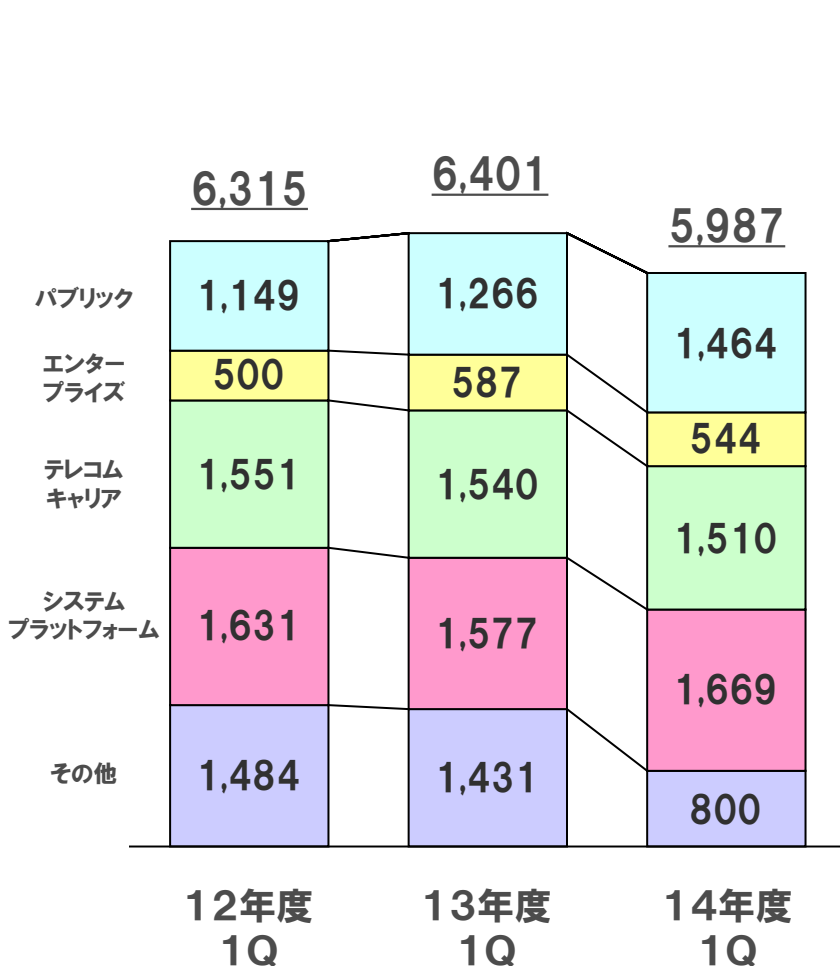
決算概要（補足）

セグメント別 第1四半期実績 (3カ年推移)

(億円)

売上高

営業損益

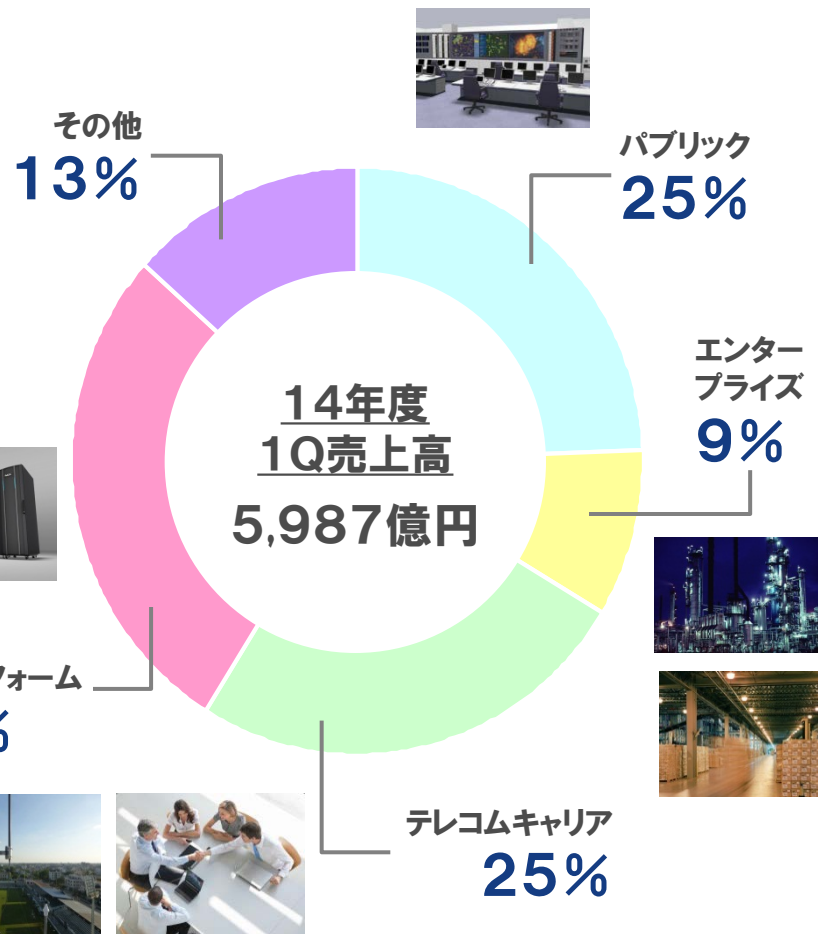


セグメント別 第1四半期実績

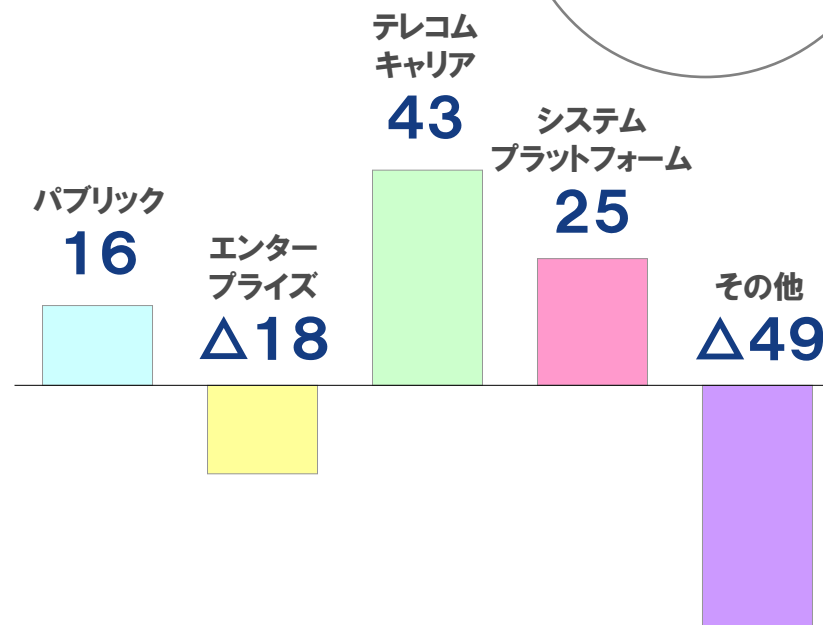
売上高

営業損益

(億円)



14年度
1Q営業損益
△71億円



売上高増減（前年同期比）

（億円）

モバイルバックホールやTOMSが増加も
国内および海洋システムが減少し減収

ビジネスPCやサーバなど
ハードウェアを中心に増収

官公向け、公共向けを中心に堅調

パブリック
+198
(+15.7%)

テレコムキャリア
△30 (△2.0%)

システム
プラットフォーム
+93 (+5.9%)

13年度1Q
6,401

その他
△632

NECモバイルリング、
NECビッグロブの非連結化や
携帯電話の出荷台数減により減収

エンタープライズ
△44 (△7.4%)

流通・サービス業向けが横ばいも
製造業向けが減収

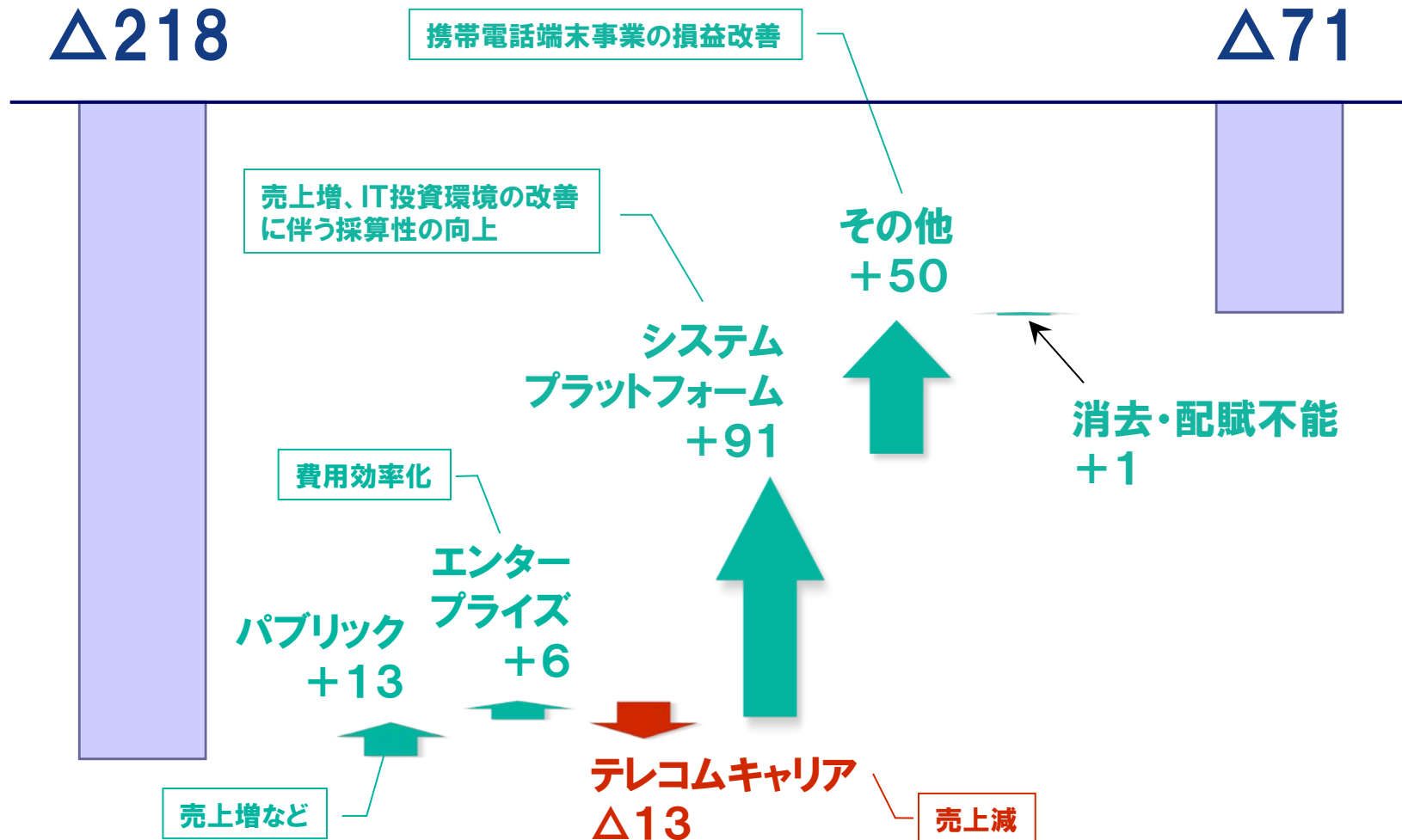
14年度1Q
5,987

営業損益増減（前年同期比）

（億円）

13年度1Q
△218

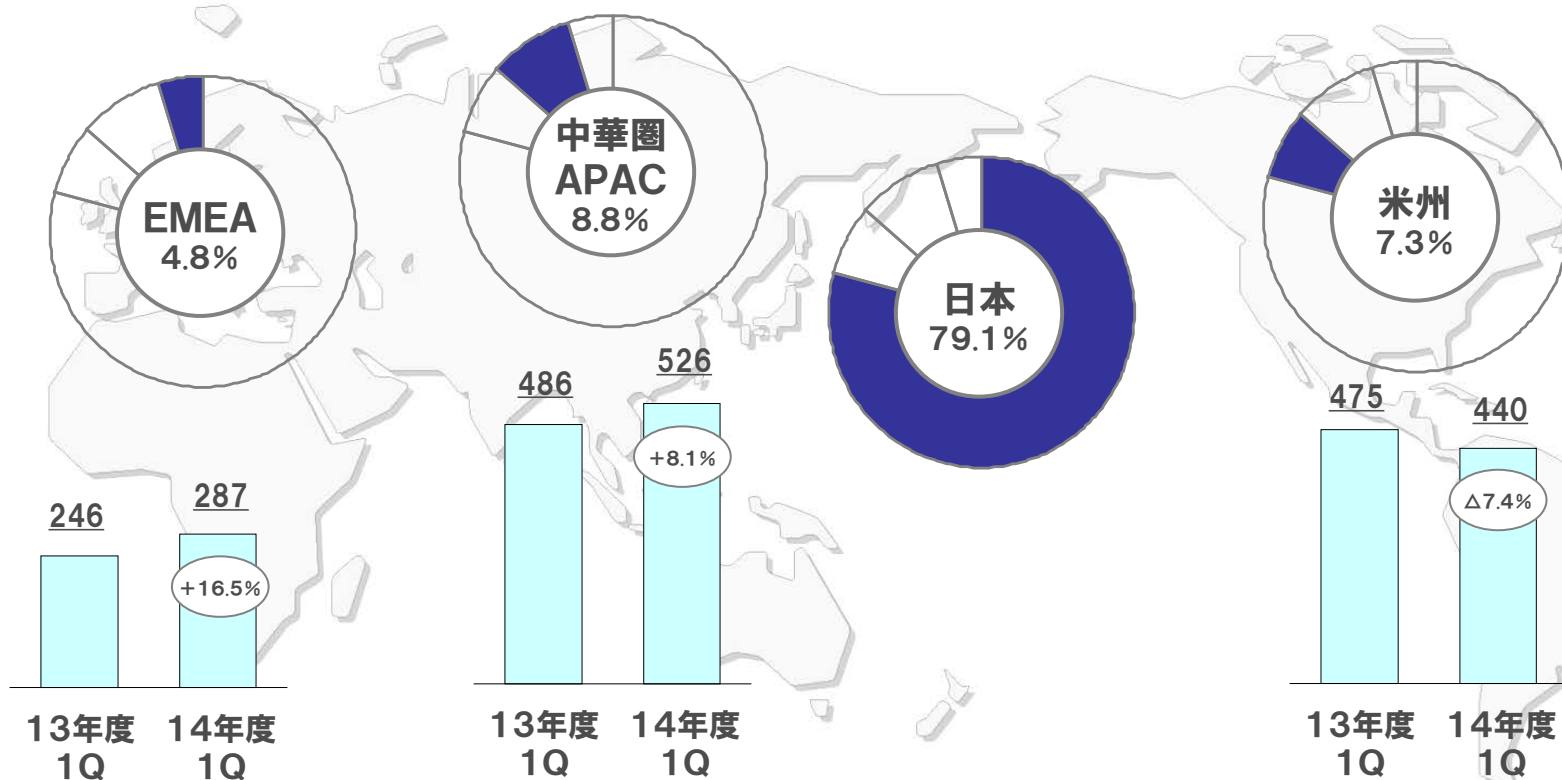
14年度1Q
△71



海外売上高

(億円)

前年
同期比



	第1四半期 <4~6月>		
	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
海外売上高	1,208	1,253	+ 3.7%
売上高比率 (%)	18.9%	20.9%	

※ 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています

財政状態に関する経営指標

(単位:億円)

	14/3末	14/6末	14/3末比	13/6末
総資産	25,053	23,781	△ 1,272	24,661
純資産	7,677	7,265	△ 411	7,847
有利子負債残高	5,752	5,541	△ 211	6,655
自己資本	6,959	6,573	△ 386	6,834
自己資本比率(%)	27.8%	27.6%	△ 0.2pt	27.7%
D/Eレシオ(倍)	0.83	0.84	△ 0.01pt	0.97
ネットD/Eレシオ(倍)	0.53	0.50	+ 0.03pt	0.55
現金及び現金同等物の 期末残高	2,066	2,264	+ 197	2,867

《参考》貸借対照表の状況（14/6末）

総資産 2兆3,781億円（前年度末比 Δ 1,272億円）

前年度末比
（億円）

流動資産

1兆3,629億円

Δ 1,400

売掛債権の回収

負債

1兆6,515億円

Δ 861

支払手形及び買掛金や
未払費用が減少

固定資産

1兆152億円

+128

純資産

7,265億円

Δ 411

退職給付に関する会計基準等の適用
などによる利益剰余金の減少

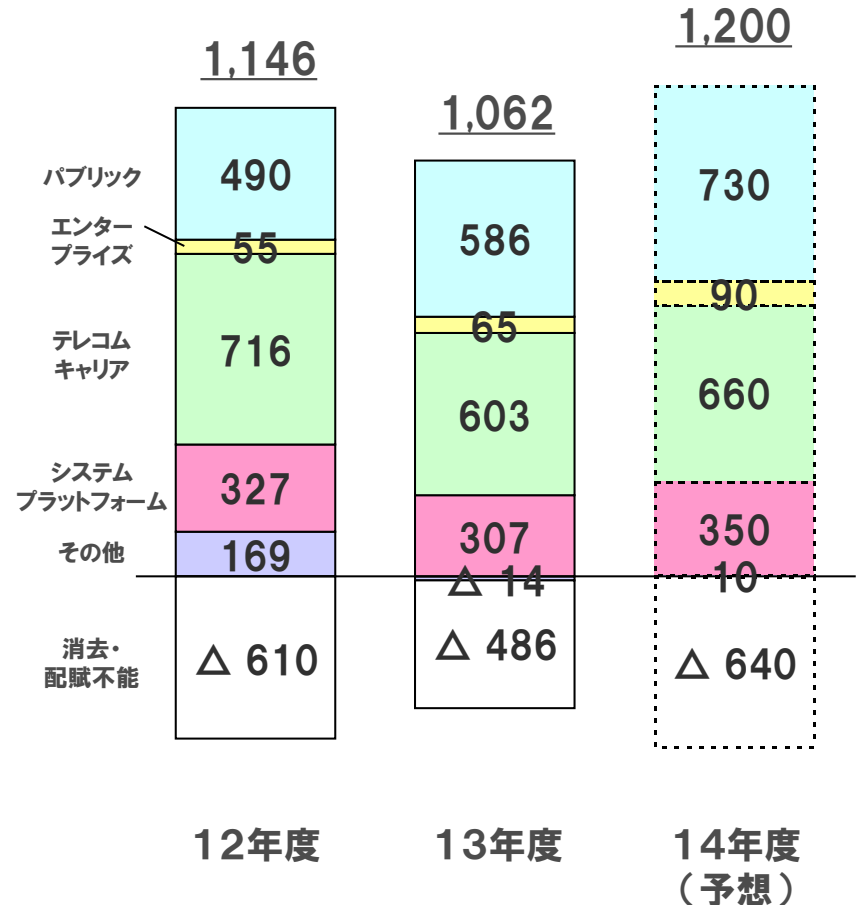
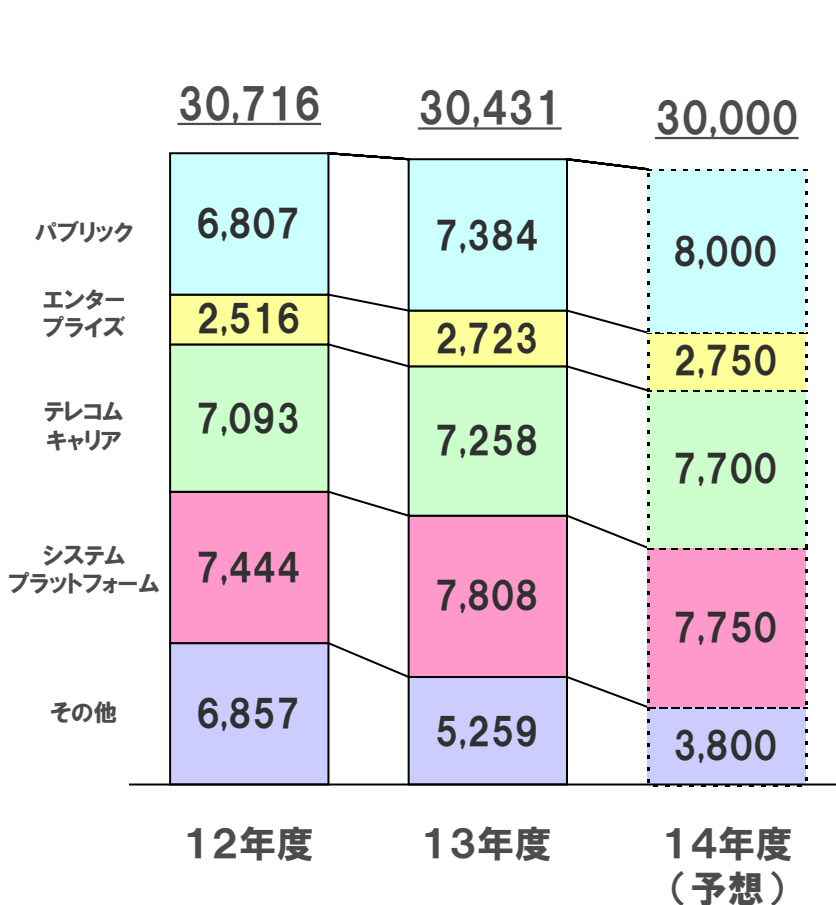
業績予想（補足）

セグメント別 業績予想 (3カ年推移)

(億円)

売上高

営業損益



※ 予想値は、2014年7月30日現在

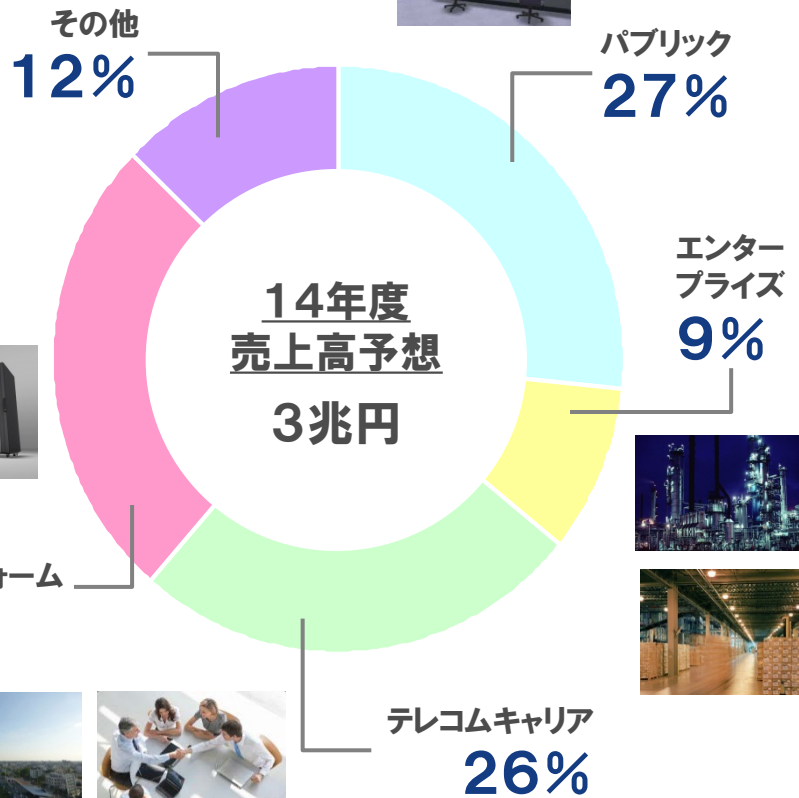
セグメント別 業績予想

売上高

(億円)

営業利益

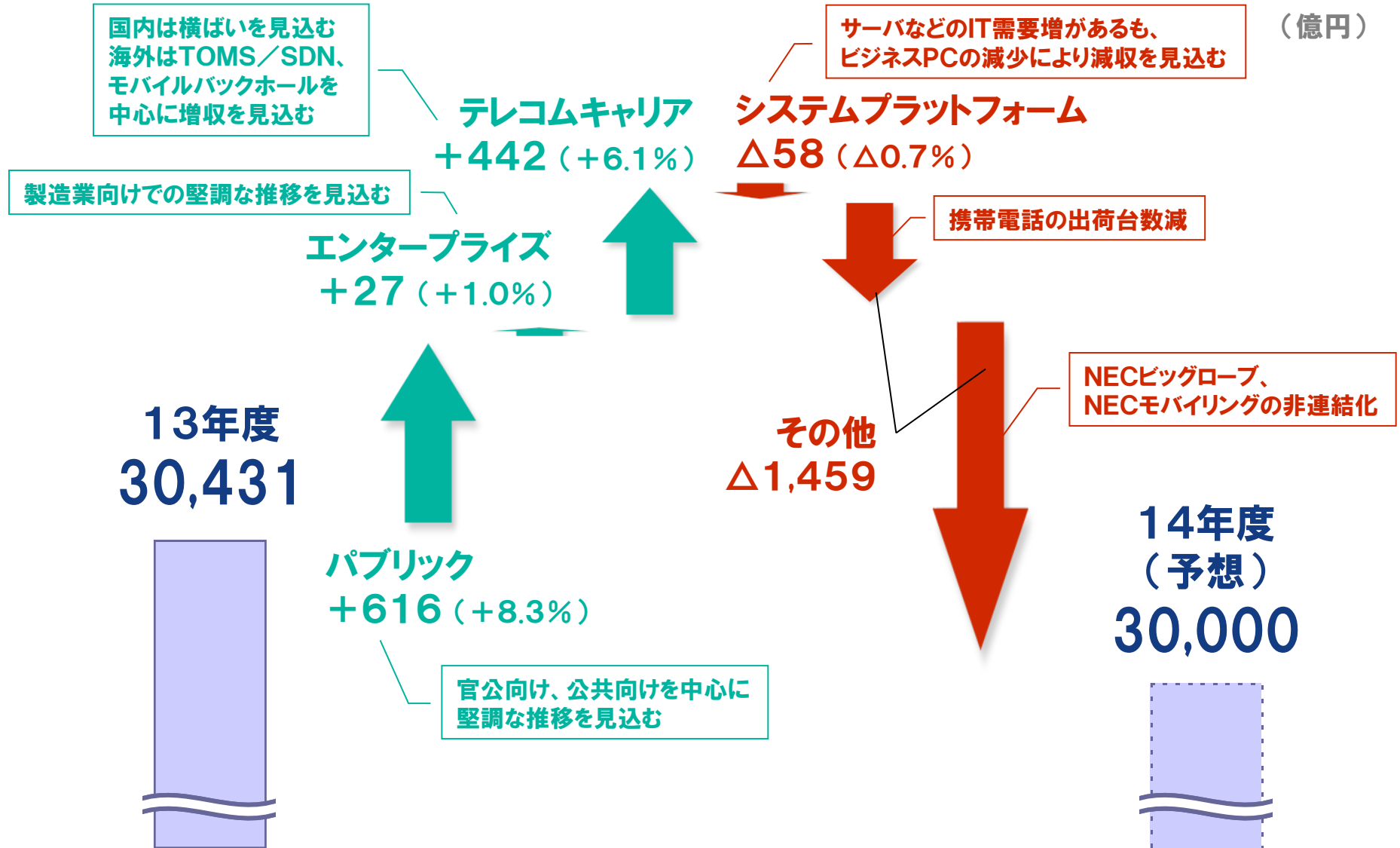
**14年度
営業利益予想
1,200億円**



※ 予想値は、2014年7月30日現在

売上高増減（前年度比）

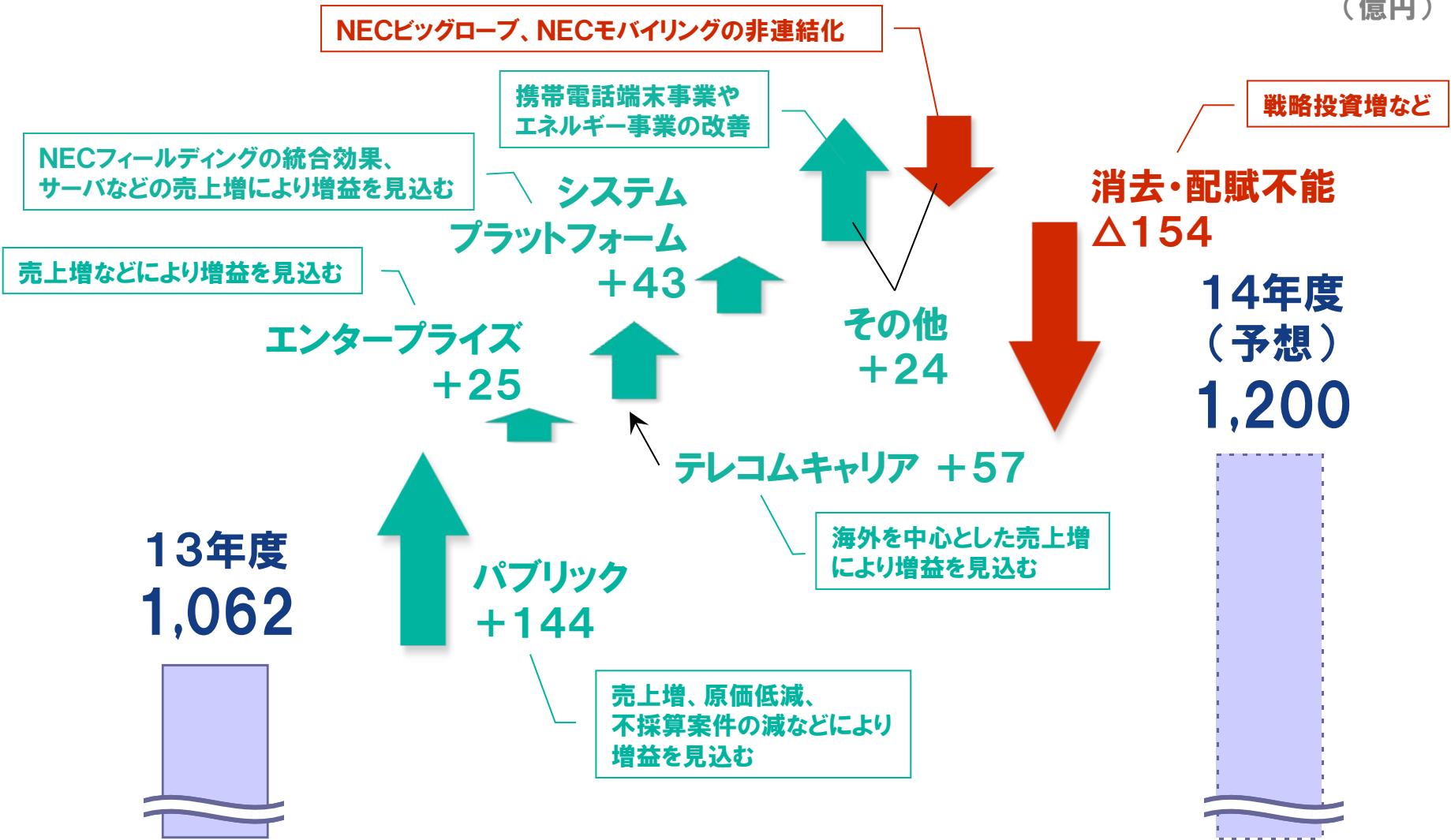
（億円）



※ 予想値は、2014年7月30日現在

営業利益増減（前年度比）

（億円）



※ 予想値は、2014年7月30日現在

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

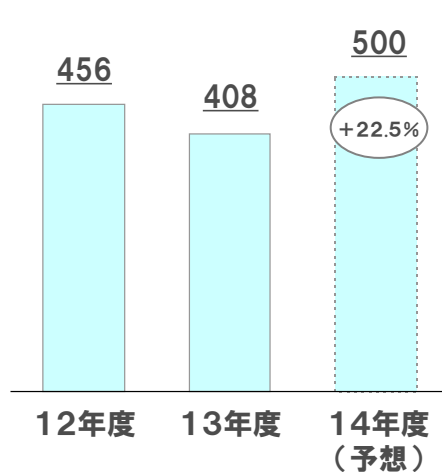
前年度比

	12年度 実績	13年度 実績	14年度 予想	前年度比
設備投資額	456	* 408	500	+ 22.5%
減価償却費	512	452	500	+ 10.7%
研究開発費	1,517	1,427	1,500	+ 5.1%
売上高比率	4.9%	4.7%	5.0%	

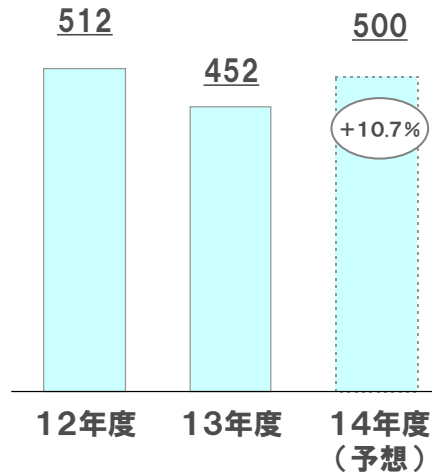
* 信託受益権の取得は含まず



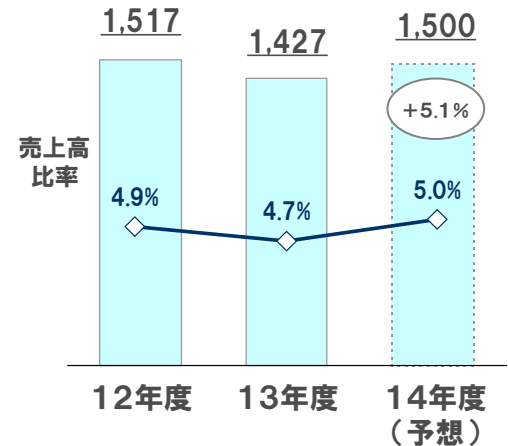
設備投資額



減価償却費



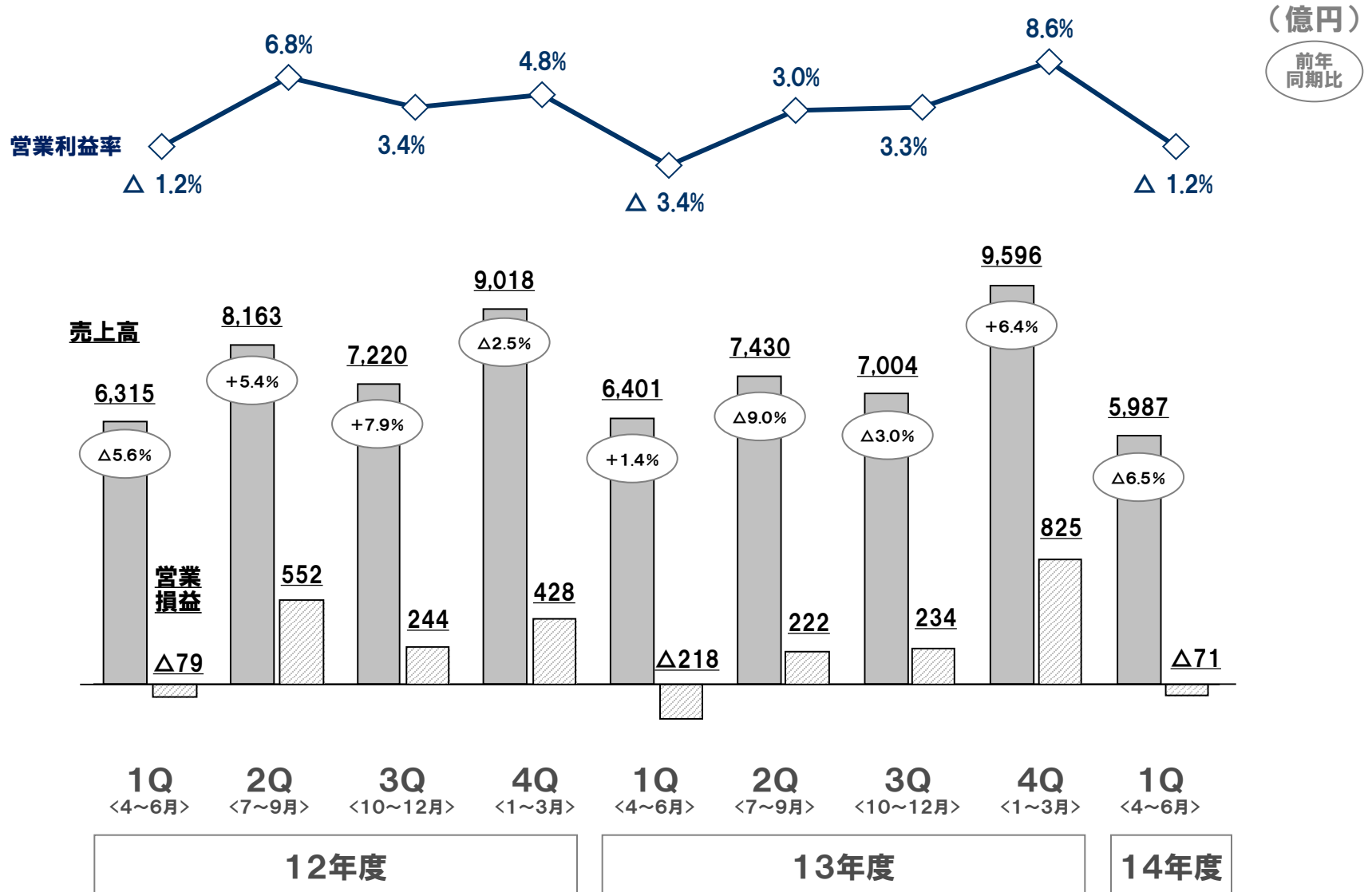
研究開発費



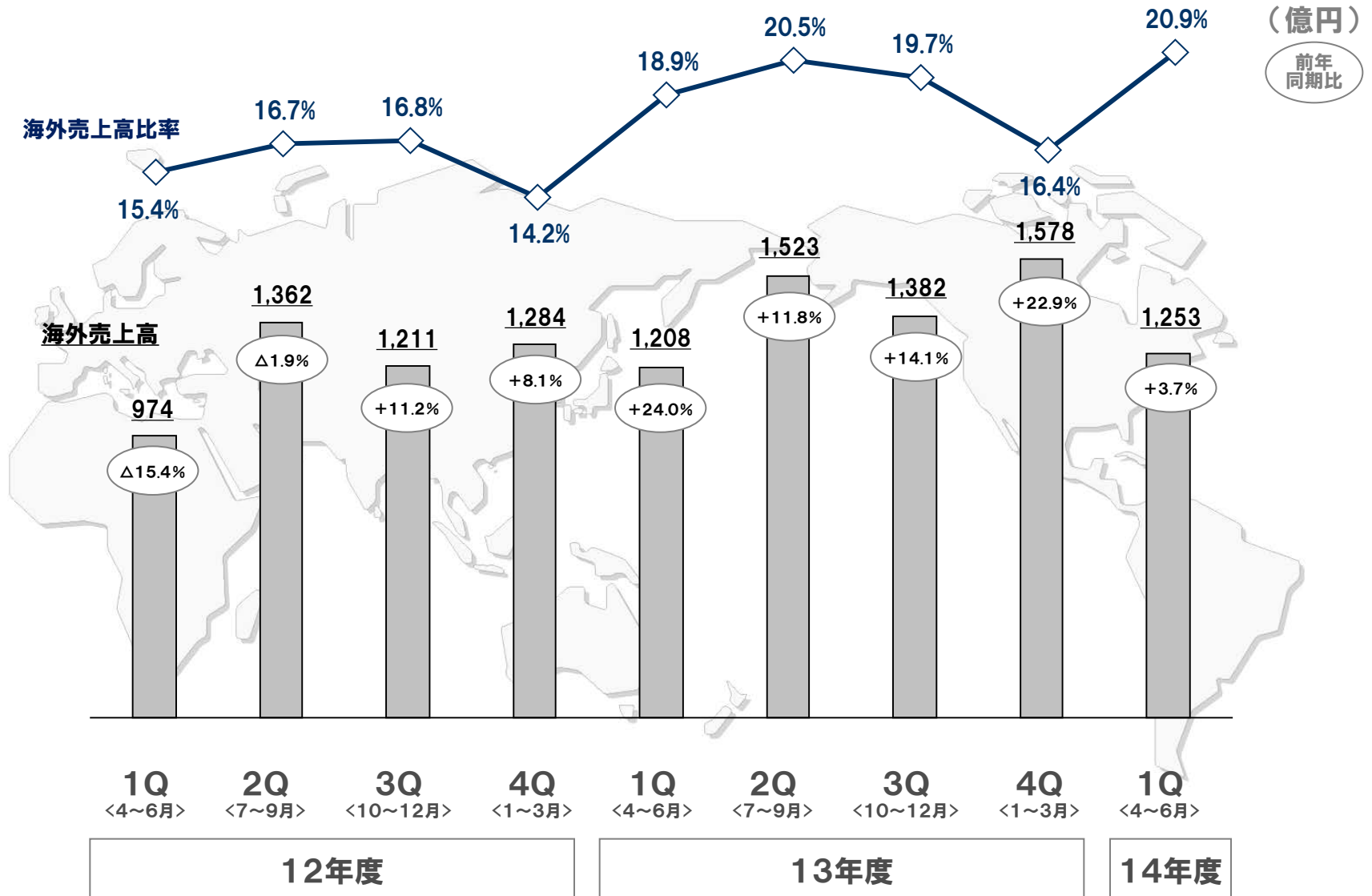
※ 予想値は、2014年7月30日現在

参考資料（業績データ）

全社売上高・営業損益推移



海外売上高推移

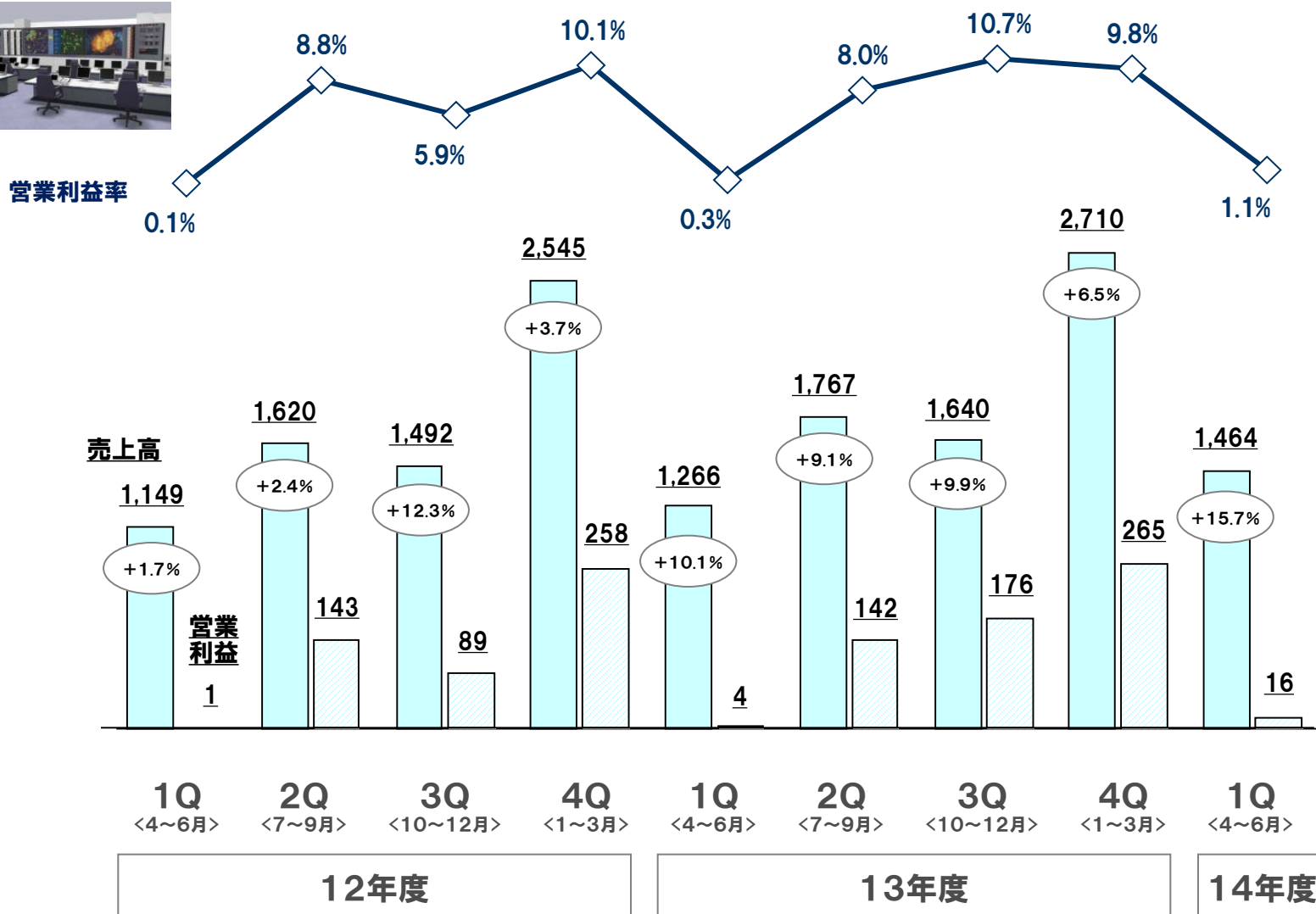


パブリック 売上高・営業利益推移



(億円)

前年
同期比

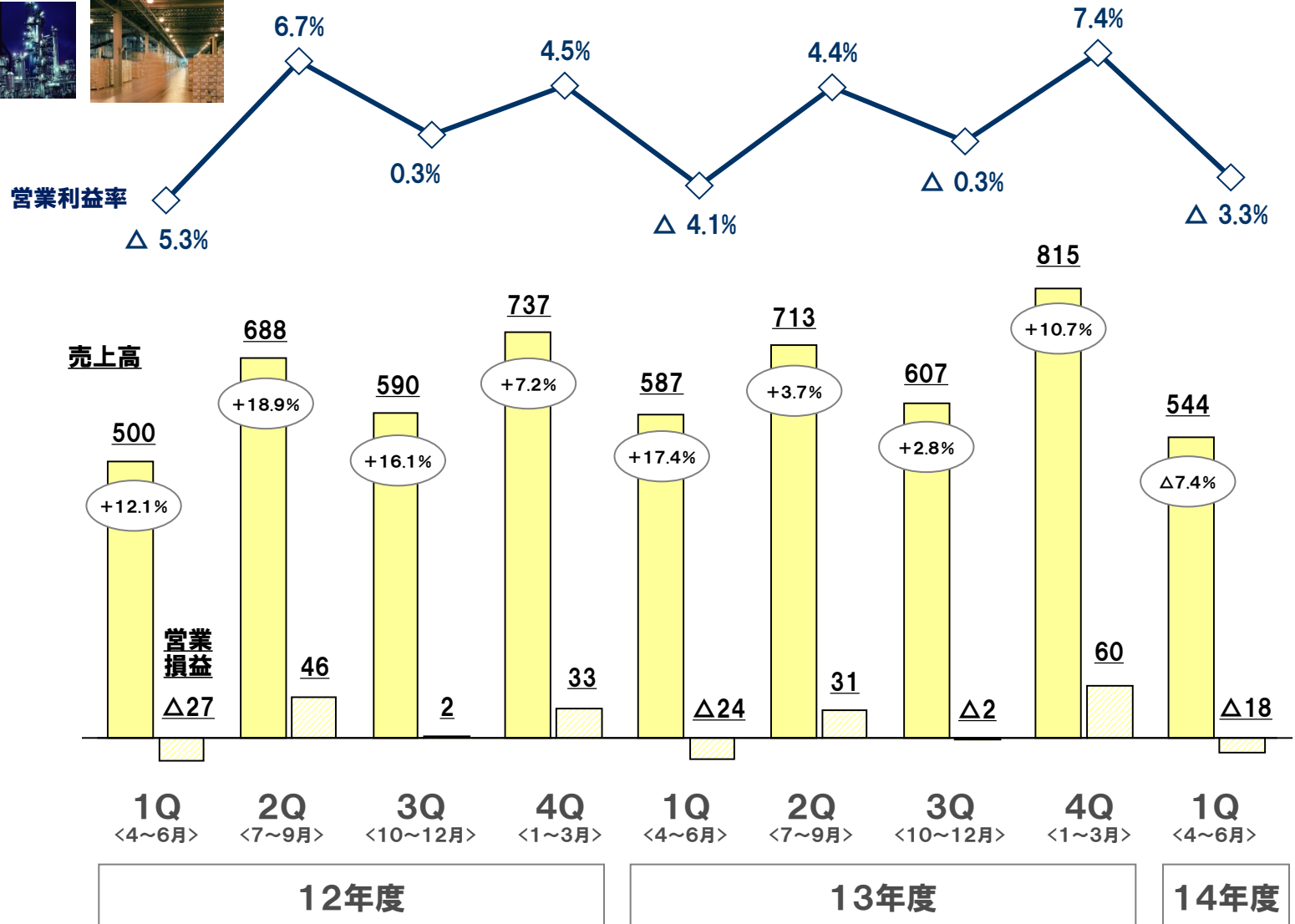


エンタープライズ 売上高・営業損益推移



(億円)

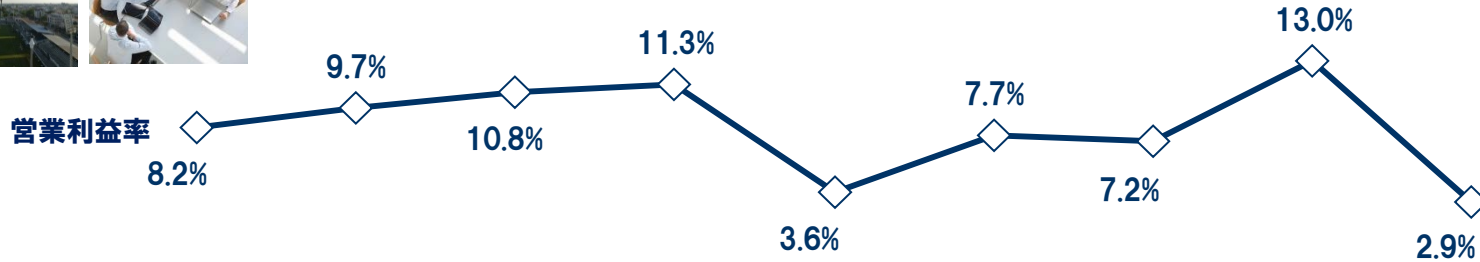
前年
同期比



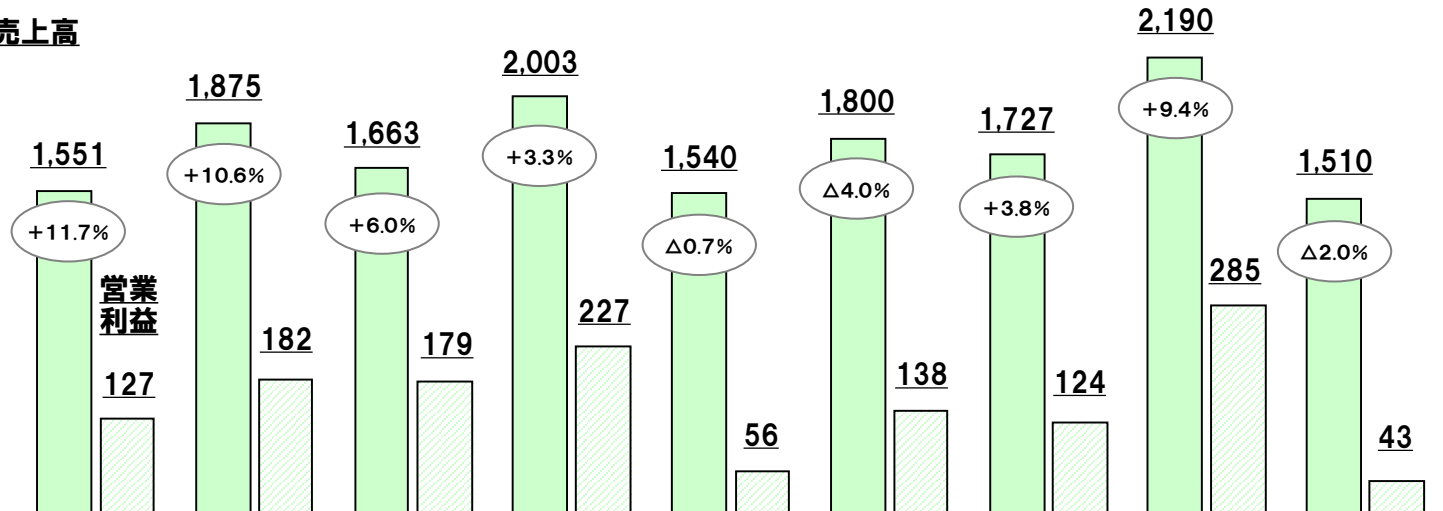
テレコムキャリア 売上高・営業利益推移

(億円)

前年
同期比



売上高



1Q
〈4~6月〉

2Q
〈7~9月〉

3Q
〈10~12月〉

4Q
〈1~3月〉

1Q
〈4~6月〉

2Q
〈7~9月〉

3Q
〈10~12月〉

4Q
〈1~3月〉

1Q
〈4~6月〉

12年度

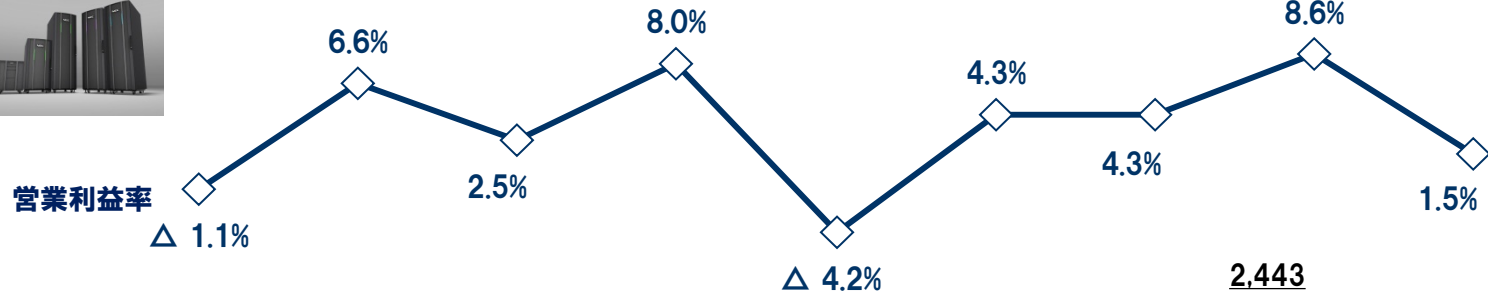
13年度

14年度

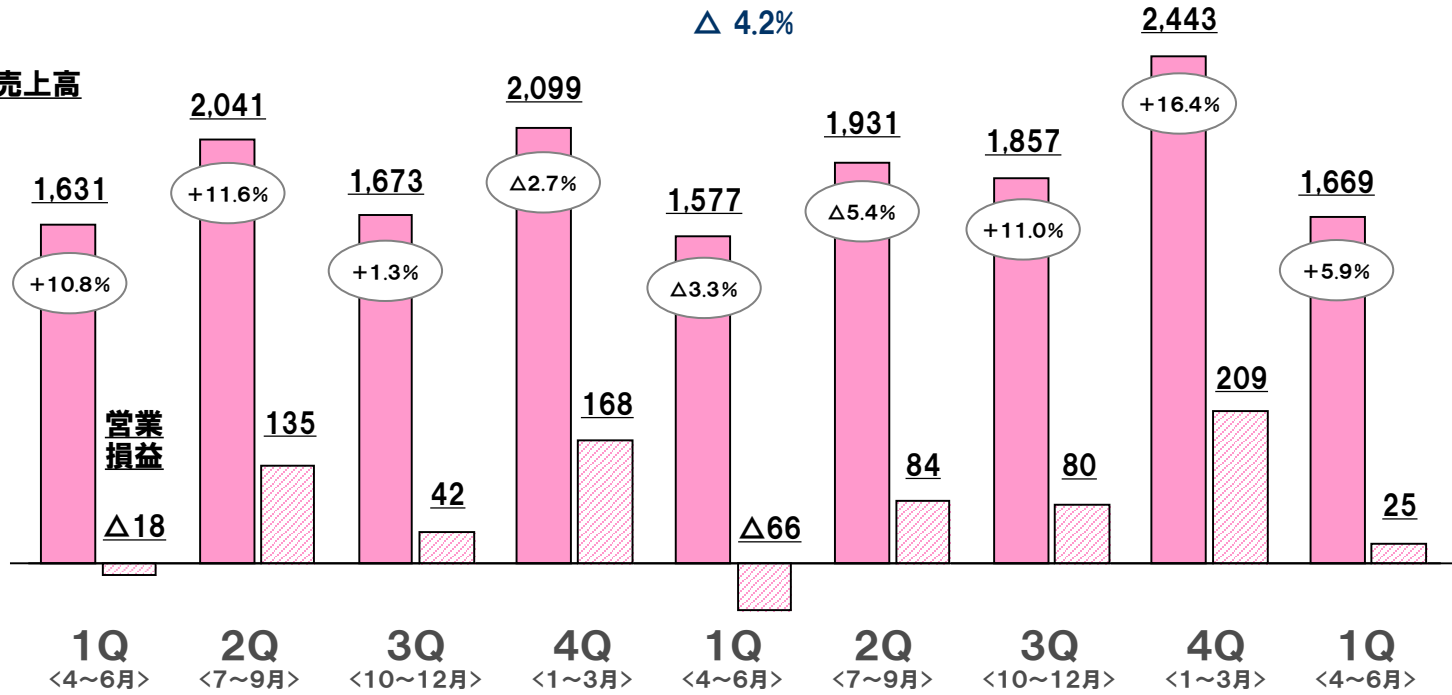
システムプラットフォーム 売上高・営業損益推移

(億円)

前年
同期比



売上高

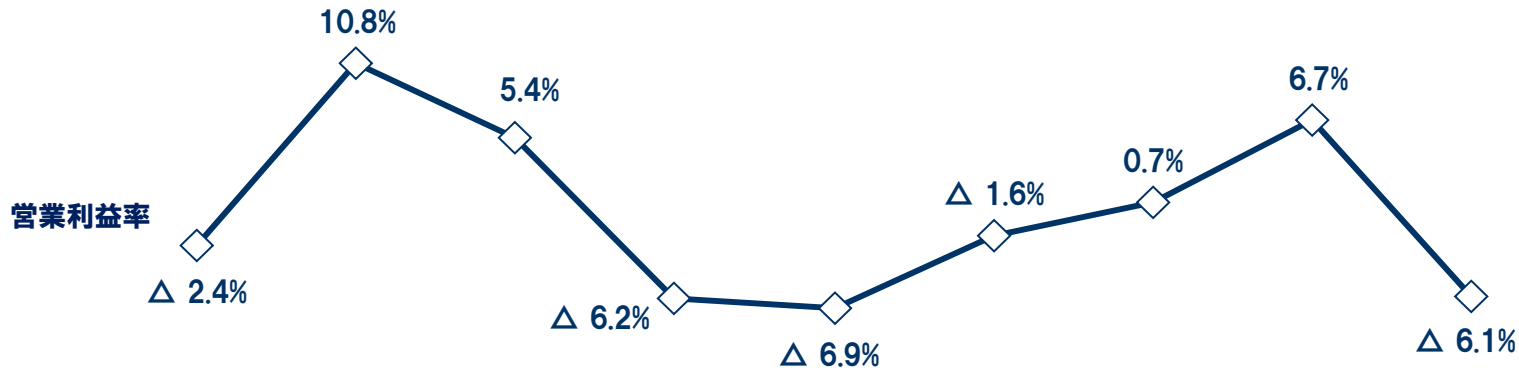


1Q <4~6月>	2Q <7~9月>	3Q <10~12月>	4Q <1~3月>	1Q <4~6月>	2Q <7~9月>	3Q <10~12月>	4Q <1~3月>	1Q <4~6月>
12年度				13年度			14年度	

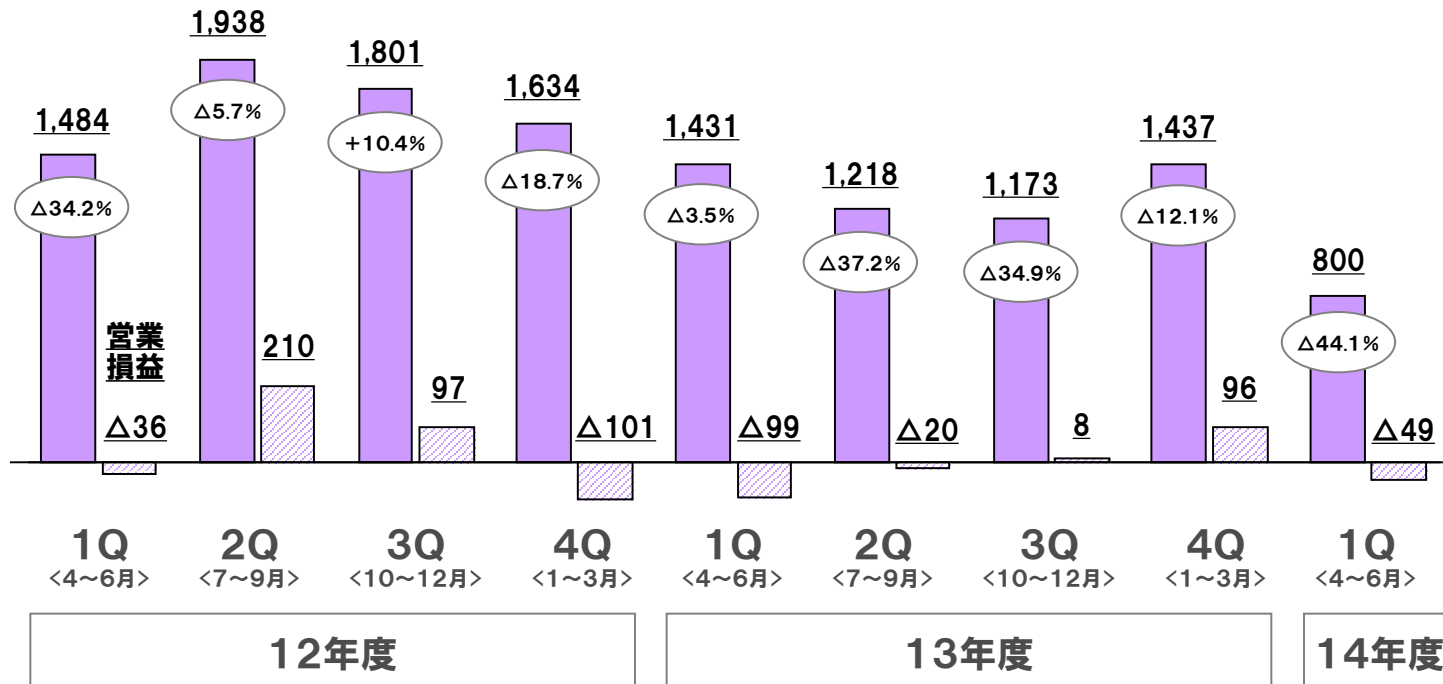
その他 売上高・営業損益推移

(億円)

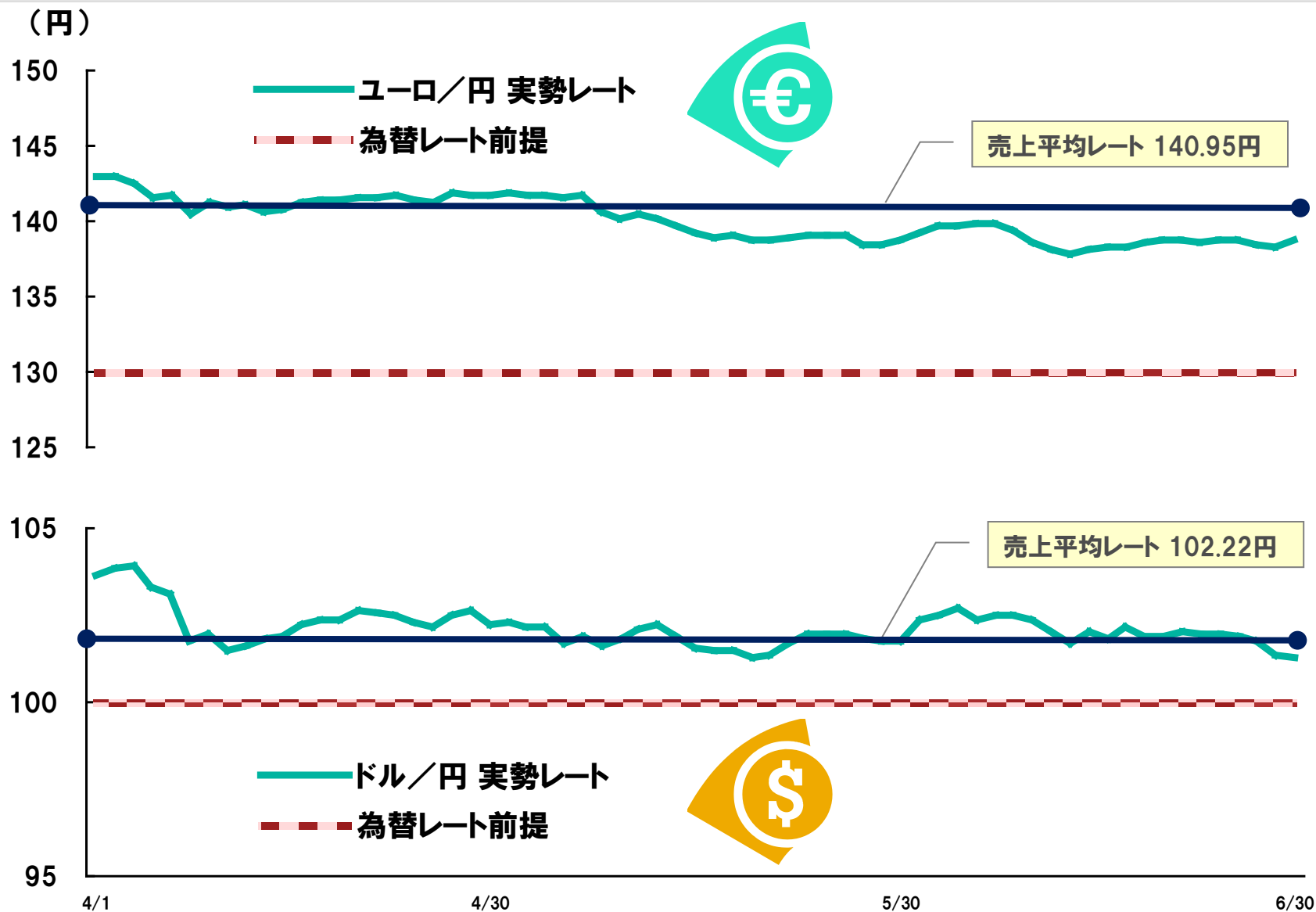
前年
同期比



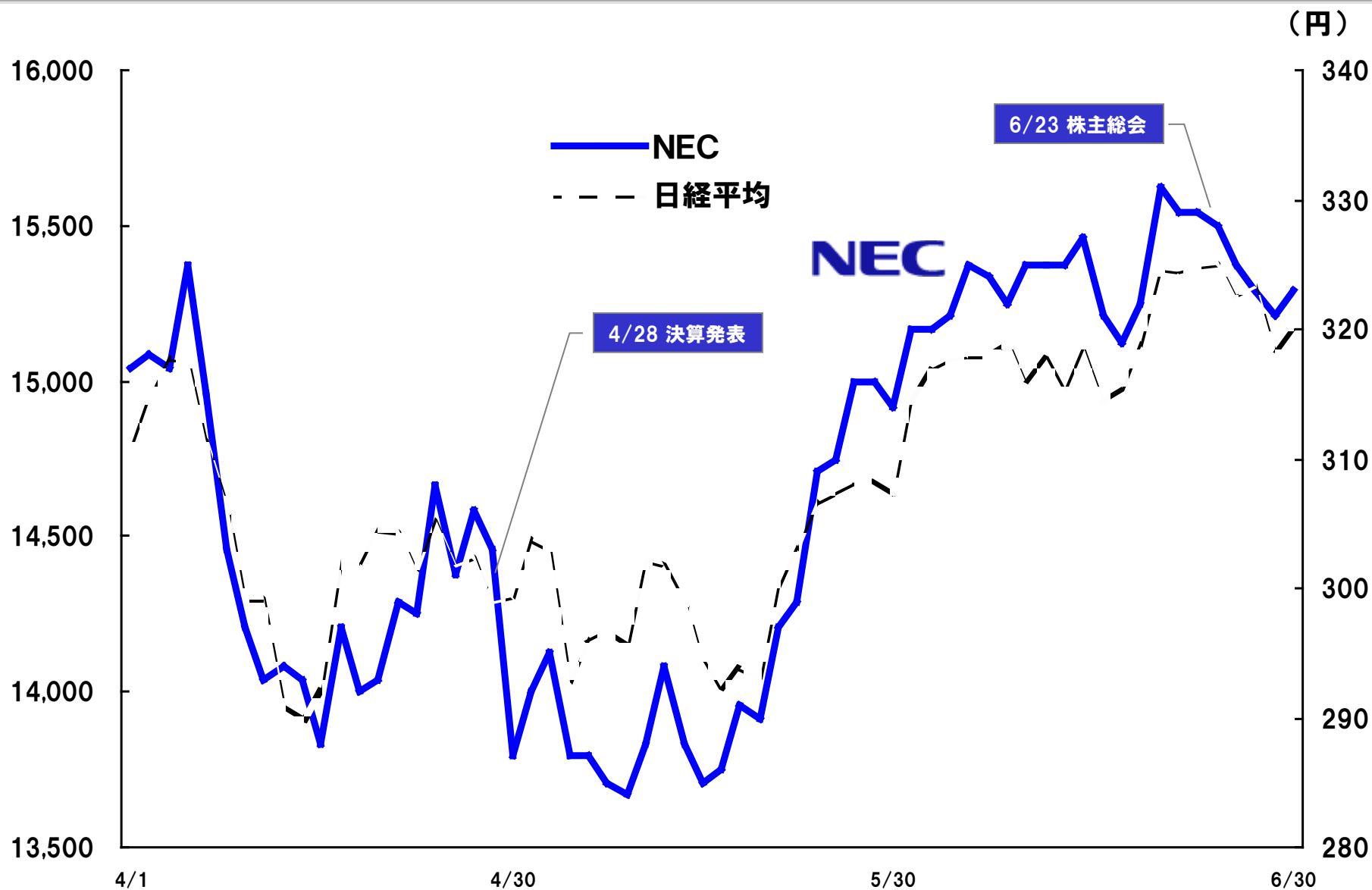
売上高



為替レートの推移



株価の推移



<将来予想に関する注意>

本資料には日本電気株式会社および連結子会社（以下NECと総称します。）の戦略、財務目標、技術、製品、サービス、業績等に関する将来予想に関する記述が含まれています。将来予想は、NECが金融商品取引所や関東財務局長等の規制当局に提出する他の資料および株主向けの報告書その他の通知に記載されている場合があります。NECは、そのような開示を行う場合、将来予想に関するセーフハーバー（safe-harbor）ルールに準拠しています。これらの記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、そうした仮定やデータ、方法は必ずしも正しいとは限らず、NECは予想された結果を実現できない場合があります。また、これら将来予想に関する記述は、あくまでNECの分析や予想を記述したものであって、将来の業績を保証するものではありません。このため、これらの記述を過度に信頼することは控えるようお願いいたします。また、これらの記述はリスクや不確定な要因を含んでおり、様々な要因により実際の結果とは大きく異なりうることをあらかじめご了承ください。実際の結果に影響を与える要因には、(1) NECの事業領域を取り巻く国際経済・経済全般の情勢、(2) 市場におけるNECの製品、サービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力、(3) 激しい競争にさらされた市場においてNECが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供し続けていくことができる能力、(4) NECが中国等の海外市場において事業を拡大していく能力、(5) NECの事業活動に関する規制の変更や不透明さ、潜在的な法的責任、(6) 市場環境の変化に応じてNECが経営構造を改革し、事業経営を適応させていく能力、(7) 為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動、(8) NECが保有する上場株式の減損をもたらす株価下落など、株式市場における好ましくない状況や動向、(9) NECに対する規制当局による措置や法的手続による影響等があります。将来予想に関する記述は、あくまでも公表日現在における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、NECがこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する経営陣の現在の推定を表すものではなく、NECが事業戦略を遂行することにより経営陣が達成しようと努める目標を表すものです。

本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。いかなる国・地域においても、法律上証券の登録が必要となる場合は、有価証券の登録を行う場合または登録の免除を受ける場合を除き、有価証券の募集または売出しを行うことはできません。

（注）

当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本基準」を採用しています。

年度表記について、2012年度は2013年3月期、2013年度は2014年3月期（以下同様）を表しています。